

理工系人材育成の取組について（学校教育課）

これまでの取組

- ・市内小中学校における科学センターでの理科学習
 - ・阿南工業高等専門学校や地元企業による出前授業
- など、他の自治体にはない学習環境の強みを生かした理工系人材の育成



本市が目指す新たな都市像

「輝く個性を育む 自然と調和した産業都市 阿南」の創生



これまでの取組とともに、学校教育における早い段階から、地域の発展に貢献する理工系人材の育成に取り組む必要がある。



今年度の取組として

今年度の取組①「大阪・関西万博チケットの購入費補助」

- ・「大阪・関西万博」が、児童・生徒に理学や工学に興味・関心を持ってもらう契機づくりの絶好の機会
- ・先端技術などの世界の英知や新たなアイデアに触れることで、学校での教育活動だけではできない理学や工学に興味・関心を持つ機会の創出につなげる

今年度の取組②「理工系人材育成に係る教育プログラムの構築」

- ・市内の小中学校からモデル校を指定し、理工系人材育成に係る取組に対する支援
- ・モデル校による教育プログラムの実証事業による成果を学校間で横展開し、理工系人材育成の推進につなげる



これまでの取組や他の自治体にはない学習環境の強みを生かしつつ、持続可能な本市の未来社会をけん引する次世代の理工系人材の育成に取り組む。

理工系人材育成の取組について（科学センター）

科学センターでは以下のように、理工系人材育成の取組を実施。

○科学センター理科学習 市内在住の小中学生向け（年間約 100 日）

開館以来、「科学センター理科学習」と題し、市内 29 校（小学校 21 校、中学校 8 校）の児童・生徒をバスで科学センターまで送迎し、充実した視聴覚機器や実験・観察器具がそろった科学センターで効果的な学習を実施。夏休みなどの学校長期休業期間を除く、年間の平日 200 日のうち、約 100 日は科学センターで授業を行っている。

○おもしろ科学実験 小中学生とその保護者向け（年間約 100 日実施）

一般市民を対象に、科学の原理原則を指導員がわかりやすく演示実験を行う。

○わくわく科学工作

幼児～小学校低学年を中心に、簡単な科学工作教室を実施。（年間約 15 日実施）

○デジタルプラネタリウム（年間約 100 日実施）

広く一般市民を対象として、土曜日、日曜日、祝日、学校長期休業中の昼間にプラネタリウムを使って、その時期に見える星について解説。

○夜間天体観望会（年間約 30 日実施）

毎週土曜日の夜間、一般の方を中心に、科学センターにある四国一の大型望遠鏡を使って、実際の星を観察してもらう。

○阿南市少年少女発明クラブ（年間 10～12 回活動）

市内に通学する小中学生 40 名を対象に、電気工作など高度な工作を中心に活動するクラブ。夏休み中には、地元企業の工場見学も行い、よりハイレベルな理工系人材育成を行っている。

○科学講演会の実施（年間数回実施）

宇宙や自然に関する有識者を科学センターに招き、講演会を実施。令和 7 年もすでに終了した講演会を含め、3 回の講演会を予定している。

SNSに係る情報モラル教育について（学校教育課）

課題

- ・インターネットや端末機器の普及により、SNS等のインターネットに係る児童生徒のトラブルが急増

※生徒指導上の問題の大半は、SNS等のインターネットでのトラブルを含んでいる

- ┌ ネット依存
- ├ オンラインゲーム等での課金
- └ Line等でのネットいじめ

等、情報化社会の加速度的な発展に伴うトラブルの拡大



これまで以上に情報モラル教育の重要性が高まっている



本市の取組

- ・活用型情報モラル教材「GIGAワークブックあなん」の活用
- ・一人一台タブレット端末の使い方指導をととした情報モラル教育
- ・研究授業、研修会の実施（教員の情報モラル教育の指導力向上）
- ・外部講師招聘等による、情報モラル教育に係るより専門的な出前授業や講演会の実施
- ・ネットトラブルに係る相談窓口の周知
- ・フィルタリング機能の設定について保護者に啓発
- ・関係機関との連携による情報共有
- ・校長会等の機会を通じた情報モラル教育実施の周知徹底

など



SNSに係るネットトラブルの最新動向の情報収集と先進事例等に学びながら、関係機関との連携を密にして、児童生徒の発達段階に応じた「児童生徒が自ら考え判断し行動する」情報モラル教育の質の向上を図っていく